

事を照らし合わせてみますと、児童・生徒の「人格の完成」に好ましい影響をもたらす1年であったのか、非常に心配になります。

さらに、大人社会は、子どもたちにとって、心から同化したいと思える社会であったのか、さらにまた、若い世代が、希望を抱き、より進化した社会を築こうとする清新な意欲を持てる年であったのか、甚く案じています。

なぜなら、知らず頭が下がるような誠実で、立派な方の存在や偉大な功績、地道な努力、心温まる優しさ、感動、喜びがかき消されてしまうほど、今年もまた、大人社会で嘆かわしい出来事や凶悪な犯罪、哀しく、痛ましい事件が続発し、子どもの世界でもいじめによる自殺が相次いだからです。

毎日のように報じられる殺人事件や死体遺棄事件。19人が刺殺され、27人が負傷した障害者施設殺傷事件。入院患者点滴異物混入殺害事件。……。

子どもたちは、このような事件をどのように見つめていたのでしょうか。

自分とは関係のない別世界の出来事と考えている子が多いと思いますが、加害者の凶行の底に憎悪や偏見があるならば、決して他人事とせず、自分自身の心の中にある憎悪や偏見に向き合い、そのよう

な反社会的な感情を制御できる人であってほしいと願うばかりです。

法律上は問題ない、とうそぶく政治家とカネ（政務活動費の不正受給・公金の私的流用・ずさんな金銭感覚など）にまつわるニュースを、子どもたちはどのように受け止めていたのでしょうか。

大手企業の利益水増しや自動車メーカーの燃費不正、警察官の犯罪、6年間で18人の患者が同じ医師の過失によって手術死した大病院、精神科医の指定医資格不正取得、公務員及び団体職員の補助金の架空申請、政治家の失言・暴言、メディアの誤報・捏造、抜本的な見直しをせざるを得ない東京オリンピック・パラリンピック開催計画、豊洲市場移転を巡る都の対応、成年後見人である弁護士の新幹線の運転士、……。

このような、大人が子どもの成長モデルとなる役割を放棄したかのように、絶対には守らなければならない職業倫理をいとも簡単に破り、通一遍の謝罪と弁解に終始する大人を、子どもたちはどのように見ていたのでしょうか。

信用失墜行為（非違行為）によって、今年、長野県の教職員17人が懲戒処分を

受けました。また、学校から万引きをしたと誤認され、志望高校の推薦を得られず、自殺した広島県の中3男子生徒の事件が大きな波紋を呼びました。

ごく一部の現象で全体を評価してはならないことをまだ理解していない児童・生徒の目に、日々接している先生方の姿はどのように映っていたのでしょうか。

「新聞の政治面や社会面は、人間のしでかした愚かな行為ばかりだが、スポーツ面は、人間の成し遂げた快挙が載っている。」と言った方がいますが、今年は、そのスポーツ面でも、野球少年の憧れであるプロ野球選手の不祥事（野球賭博・引退したスター選手の覚醒剤取締り法違反）やバドミントン世界ランキング2位の選手の賭博関与などが大きく取り上げられました。子どもたちは、このようなトップアスリートがしでかした愚かな行為をどのように感じていたのでしょうか。

そして、特に今年は、嘘を平然と口にして、事実を臆面もなくねじ曲げる大人が目立ちました。

9月8日の信濃毎日新聞に、「7日、元首相が、日本外国特派員協会で記者会見し、東京電力福島第1原発の汚染水問題について、現首相が東京五輪招致の

とき、『汚染水』状況はコントロールされている。」と発言したことを、『これはうそだ。』と強調した。」という衝撃的な記事が載っていました。

記事の内容は事実と思いますが、その事実が指し示している、汚染水に関する事実の真偽については、読者には判断のしようがありません。したがって、元首相が外国メディアに対して嘘をついたのか、現首相が世界中に嘘をついていたのか、はたまた、両者の「コントロール」の定義に決定的な差異があるのか、推察するしかありません。

事ほど左様に、元首相から現首相への「嘘批判」をはじめ、今年非常に目立った大人の嘘に対して、子どもたちは何を感、何を学んでいたのでしょうか。

つい悪口を言ったり、愚痴をこぼしたり、ついつい規則や約束を破ったり、怠けたりと、今もなお己の体たらくに振り回されている身が申し上げるのはまことにおこがましいことですが、大人はもっと誠実に生きなければなりません。

子どもは、大人が子どもに向かつて発する言葉よりも、大人の後ろ姿を見て、育っているからです。そして、学校は大人社会の縮図であるからです。

日本の世直しを学校に求める前に、大人がしっかりしましょうよ……。